

令和7年度第1回 蓮田市総合振興計画審議会会議録

招 集 日	令和7年5月27日（火）		
開催場所	蓮田市役所 201会議室		
開催日時	開会 令和7年5月27日（火）午前 9時30分 閉会 令和7年5月27日（火）午前 10時30分		
出席状況 （委員）	会 長	中山 和 久	出席 ・ 欠席
	副 会 長	奥 沢 信 男	出席 ・ 欠席
	委 員	石 井 文 枝	出席 ・ 欠席
	委 員	光 野 春 生	出席 ・ 欠席
	委 員	山 田 慎太郎	出席 ・ 欠席
	委 員	加 藤 智 子	出席 ・ 欠席
	委 員	田 口 桐 子	出席 ・ 欠席
	委 員	寺 澤 亜希子	出席 ・ 欠席
	委 員	馬 場 干 児	出席 ・ 欠席
	委 員	松 澤 行 男	出席 ・ 欠席
出席職員 （策定委員、事務局）	【蓮田市総合振興計画策定委員】 蓮 田 市 長 山口 京子 副 市 長 加藤 繁 教 育 長 西山 通夫 総 合 政 策 部 長 金子 克明 総 務 部 長 高橋 司 環 境 経 済 部 長 初野 尚久 健 康 福 祉 部 長 森上 和代 都 市 整 備 部 長 高橋 宏治 上 下 水 道 部 長 中田 俊之 会 計 管 理 者 柴田 賢次 消 防 長 小野寺 潤 学校教育部長 安田 修一 生涯学習部長 清野 哲 議会事務局長 遠藤 忠則 監査委員事務局長 松永 恭武 都市整備部参事兼道路課長 門井 政治 【事務局】 政策調整課長 細沼 誠 政策調整課副主幹 木村 幸歩 政策調整課主事 西谷 美香 政策調整課主事 大熊 一輝		
傍 聴 者	0名		
1 開会	開会宣言		
・ 会長挨拶	《中山会長より挨拶》		
・ 市長挨拶	《山口市長より挨拶》		

2 議題	(政策調整課副主幹) 続きまして、次第の2「議題」でございます。 蓮田市総合振興計画審議会条例第5条第2項に基づきまして、これからの議事進行を中山会長にお願いしたいと存じます。中山会長、よろしくお願いいたします。
・定足数の確認	(委員10名全員出席のため、会議の成立)
・傍聴者の確認	《議長より傍聴者の確認》 (傍聴者0名)
(1) 蓮田市第6次総合振興計画の策定について(諮問)	(議長) 初めに、山口市長から当審議会に対しまして、蓮田市第6次総合振興計画の策定についての諮問がございます。 (山口市長) それでは、これから中山会長に諮問書をお渡しさせていただきます。 《諮問書朗読》 どうぞよろしくお願い申し上げます。 (議長) 承りました。ただ今、市長より諮問書をいただきましたので、皆様にご報告申し上げます。
(2) 蓮田市第6次総合振興計画の策定方針等について	続きまして、議題2「蓮田市第6次総合振興計画の策定方針等について」を審議いたします。 事務局から説明をお願いいたします。 《事務局から資料3について説明》 (議長) ただいま事務局から第6次総合振興計画の策定方針等について説明がありました。ご質問・ご意見等がございましたら発言をお願いいたします。 (奥澤副会長) 先ほども説明がありましたが、第5次総合振興計画と比較した時の第6次の特徴、特に前回とは異なる点について説明をお願いします。

(政策調整課長)

先ほども少し説明させていただきましたが、まずは、社会情勢の変化に対応する計画作りということで、現行計画は基本構想及び基本計画の計画期間を両方とも10年間で定めておりましたが、不測の事態に追いつけない事象も出てきており、今回は基本計画が10年間だったものを5年間ずつの前期・後期に分けることで、機動的に動けるようになることを想定しております。

また、これまで225の細かな事業を10年間の基本計画に載せていたため、なかなかそれらを動かすことができず、硬直化を招いてきた要因の一つになっていると考えております。そのため、基本計画には大まかな方向性を記載し、細かな一つ一つの事業は載せず、現在も行っている実施計画を中心に進行管理を行っていく予定でございます。

もう1点、市民協働による計画作りということで、幅広い年齢層の市民の視点を取り入れた計画にしていく予定でございます。今回新たな試みとしまして、小中学生に対するアンケートを行う予定でございます。

また、市民会議での新たな試みとして、高校生、大学生も含め、幅広い意見を取り入れていきたいと考えております。

(奥沢副会長)

今のお話だと、細かい事業は実施計画に盛り込むとのことですが、実施計画はこの審議会で報告はありますが、直接審議はしません。どのような事業を実施するのかについて、主な事業は基本計画に載せる予定でしょうか。

(政策調整課長)

細かい事業は載せない予定ですが、大きな事業や注力する事業はピックアップして載せる予定でございます。

(馬場委員)

資料3の2ページ、「4. 策定体制」の中で、市民アンケートを4,000人、市民会議を30人に対して実施するとのことですが、この妥当性について教えてください。

(政策調整課長)

詳細については、後ほど説明申し上げますが、アンケートは概ね1,000人を抽出すればかなり精度の高い結果が得られると見込んでいます。18歳以上の市民を年代別の構成にあわせ、年齢層によって偏りなく回答が得られるような抽出を考えております。

市民会議は高校生以上の市民30人を対象とさせていただき、内15人は関係団体から選出していただく予定です。その他、蓮田松韻高校や

包括連携協定を結んでおります人間総合科学大学と日本薬科大学の学生にも公募を行います。また、市民アンケート発送時に同封する応募用紙を通じて公募を行うなど、幅広い年齢層の意見を取り入れられるような形を検討しております。

(馬場委員)

市民4,000人というのは、市の人口の何パーセントにあたるなどの比率で決めたのでしょうか。

(政策調整課長)

いろいろ説がありますが、一般的に5パーセント(約3,000人)を抽出すればある程度正確性があると言われています。また、約1,000人の回答があれば良いとも言われています。更には、前回調査時も4,000人を対象としていたので、今回も同じ人数を対象としたという理由もございます。

(馬場委員)

了解しました。

(議長)

統計学的にはかなり多い人数だとは思いますが、それだけ正確性が期せるということで良いと思います。

では、他にご質問等がなければ議題2についての審議は以上で終了いたします。

(3) その他

最後に、本日のメインである議題3「その他」について審議いたします。事務局からまず市民意識調査についての説明をお願いいたします。

《事務局から資料4・5について説明》

(議長)

ただいま事務局から蓮田市第6次総合振興計画策定に係る市民意識調査について説明がありました。資料5は前回のものを踏まえて、大変良いものになっていると思いますが、委員の皆様、ご質問・ご意見等がございましたら発言をお願いいたします。

(田口委員)

WEBフォームで回答できるというのは時代に合っていると思います。若い人達も会社員も、今は本当にいろいろな方々がWEBで回答していると思います。私自身にも仕事で様々なアンケートが届きますが、WEBに変わってきており、それがとても回答しやすいと感じています。紙に書いて、折って、封筒に入れて、投函するという手間がないという

のはとても良いと思います。今回それに対応していただけているので、回収率をあげるためにもとても良いと思います。

(馬場委員)

資料4の2ページ、問6の選択肢2は県内のさいたま市のみで、選択肢3は県内の上尾市等の他市が挙げられているのですが、問10-1の選択肢1の県内には、さいたま市も上尾市等の他市も1つの選択肢にすべて一括されていますが、これらの整合性はどのようなのでしょうか。

(政策調整課長)

馬場委員のご指摘のとおり、その整合性をどうするかという議論が庁内でもございました。事務局で検討したところ、違和感がありますが、前回調査との比較において、前回の選択肢に合わせた方が比較ができるため、そのままの形とさせていただきました。

(議長)

前回調査の設問というのはどれに該当するのでしょうか。

(政策調整課長)

資料5の問10-3に該当します。

(議長)

前回調査と比較する場合は、選択肢の2と3を足せばよいだけだと思いますので、馬場委員のおっしゃるとおり、新しい調査の問10-1を問6の選択肢と整合性を持たせた方がよいのではないのでしょうか。

(政策調整課長)

わかりました。そのように変更させていただきます。

(馬場委員)

もう一点、資料4の3ページの問9で、「数年前と比較して」とありますが、これは何年前のことを言っているのでしょうか。

(政策調整課長)

数年前の捉え方は個人によって異なるかと思います。具体的な数字を入れた方がよろしいでしょうか。

(議長)

目的を持って聞かないと意味のない設問になってしまうと思います。3年前と比較したいのか、5年前と比較したいのか、目的を持って設定

した方がよいと思います。

(政策調整課長)

庁内における議論において、前回調査は令和4年に行っているのですが、3年前との比較にしようかという話もありましたが、回答する方が例えば2年前に引っ越してこられた場合、3年前に区切ってしまうとわかりづらくなってしまうという意見もございました。やはり3年前にするのが妥当かと思いますが、よろしいでしょうか。

(議長)

問7と整合性を持たせて、問7の選択肢1を選択した人は除外して、2～5を選択した人に限定して問9に回答してもらうという方法も研究する場合にはよく用います。あるいは、選択肢3と回答した人にターゲットを絞り、そこを評価するという目的もあっても良いと思います。どのように蓮田市をよくしていこうと考えた時に、2～5年前でも、6～10年前でもよいと思いますが、時代がたくさん変わっていることからすると、2～5年前が妥当なのではと思います。

(政策調整課長)

それでは、2～5年前に修正させていただいてよろしいでしょうか。

(議長)

馬場委員、よろしいでしょうか。

(馬場委員)

その方が具体的で良いと思います。

(議長)

せっかくお金をかけてやるものなので、研究に耐えるだけの整合性を持たたらより良いものになると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(政策調整課長)

はい、わかりました。

(議長)

では、他にご質問等がなければ事務局からの説明を続けてください。

《事務局から資料6について説明》

(議長)

ただいま事務局から蓮田市第6次総合振興計画策定に係る小中学生アンケートについて説明がありました、ご質問・ご意見等がございましたら発言をお願いいたします。特に、小学5、6年生、中学2年生に対して実施することが妥当であるかという点になるかと思います。タブレットで回答してもらうという理解でよろしいでしょうか。

(政策調整課長)

GIGAスクール構想で各児童・生徒に支給されているタブレットで回答してもらう予定でございます。

(議長)

今回は質的な調査で、良い質問だと思っておりますが、いかがでしょうか。

(田口委員)

対象の学年は、小学生は高学年の5、6年生の2学年、中学生は2年生の1学年となっておりますが、このように抽出した背景を伺わせていただけますか。

(政策調整課長)

小学生につきましては、やはり高学年の方が意見が出てくる傾向にあるので、5、6年生としました。中学生につきましては、1年生は、小学5、6年生と年齢が近く、似たようなデータが取れると想定しました。また、3年生は受験生ということもあり考慮しました。3学年合わせて1,500人からデータが取れるため、この3学年に決めさせていただきました。

(田口委員)

小学生は市内の学区内しか子どもたちだけで移動してはいけないことになっていますが、中学生になると、部活動や塾などで市外に出ていく機会も増えて、広い視野の意見が聞けると思います。

小学生が市内で遊んでいて満足しているかどうかの意見を聞けることは良いことですが、5年生と6年生だとわりと同じ環境にいるので意見も近いと思います。中学生になると視野が広がるので、1学年にしか聞かないのかと思ったのですが、全体の人数の関係や受験生であることを考慮したなど、納得しました。ありがとうございました。

(寺澤委員)

中学3年生は受験を考慮されたとのことですが、恐らく受験に伴って

自分の将来を考えるお子さんが多いと思います。タブレットで回答できるのであれば、そこまで手間はかからず、受験に大きく影響を及ぼすわけではないと思いますので、是非中学3年生から意見を聞き取ってはいかがでしょうか。

(政策調整課長)

庁内からも、もっと幅広く意見をもらった方がよいのではないかとという意見があり、検討させていただきましたが、自由記述形式の回答が多く、予算の都合上これ以上人数を増やすことができなかったという事情もございます。

(議長)

1 学年500人ずつにするのではなく、400人にはできないのでしょうか。

(政策調整課長)

1 学年の人数を減らして、学年数を増やすということですか。

(議長)

そうですね。せっかく中学3年生は受験で自分の人生を考えて、蓮田にやっぱりいたいな等、真剣に考えている子どもたちの意見をもらった方が妥当なのではないかというご意見だと思うのですが。

(政策調整課長)

委託事業者と調整が必要な事項なので、いかがいたしましょうか。もしくは、小学5年生をやめて、中学3年生に変更するということであればさほど人数は変わらないと思いますが、いかがでしょうか。

(議長)

それでもし予算に収まるのであれば、自由記述の内容が小学5年生よりは中学3年生の方が期待できるので、回答してもらえたら今後の市政に非常に役立つと思いますが、予算的な問題等いかがでしょうか。

(政策調整課長)

只今、委託事業者の方から、それであれば差し支えない旨確認しましたので、小学5年生の代わりに中学3年生にするという形でよろしいでしょうか。

(委員一同同意)

(議長)

委員の皆様、ありがとうございます。それでは、松澤委員お願いします。

(松澤委員)

これは、何分くらいで終わるアンケートだと想定していますか。

(政策調整課長)

5～6分で終わることを想定しています。

(松澤委員)

「あなたが幸せを感じる時」と設問にありますが、「幸せ」は非常に意味が深いと思いますが、小学生が考える小さな幸せということでしょうね。もしかしたらお父さん、お母さんに聞きながらという形に展開するかもしれませんが。

(議長)

できれば5分と言わず、20分くらいかけて回答してもらいたいものですね。

では、他にご質問等がなければ事務局からの説明を続けてください。

《事務局から資料7について説明》

(議長)

ただいま事務局から蓮田市第6次総合振興計画策定に係る市民会議について説明がありました、ご質問・ご意見等がございましたら発言をお願いいたします。

まだざっくりした感じがあるので、ご意見をいただいて少し詰めていくことができればと思いますが。

(石井委員)

このような会議はよく同じ方が出席しているのではないかと思いますので、いろいろな意見が集まるよう調整していただきたいと思います。先ほどから、ウェルビーイングという言葉を経験して、やっとそれが幸福度だということがわかったのですが、蓮田に住んでいて幸福に感じていることを、皆様に改めて考えて発表していただける貴重な機会なのではないかと思います。是非いろいろな意見を漏らさずに汲み取っていただければと思います。

(議長)

そうですね。メンバーを見ても、幅広い意見がいただけるようなプランになっていると思います。

(光野委員)

対象者である「市内キーパーソン」というのはどういう方になるのでしょうか。

(政策調整課長)

資料7の別紙にある市民会議参加者案の15番までの各団体の構成員の方と、学生の中から見てどのように感じるかを知りたいということで高校生、大学生もキーパーソンとさせていただきました。それ以外の方は、市民アンケートを通じた公募で申し込みされた方々という捉え方をしております。

(光野委員)

私自身は蓮田市民ではないが、仕事柄いろいろな地域を見てきています。市民会議が相応しいのかはわかりませんが、蓮田市民ではないが蓮田で働いている方々の意見が取れるような場があってもよいのではと感じます。

(政策調整課長)

おっしゃるとおり、検討段階ではその案についても考えました。それに近いメンバーとして、日本薬科大学の方々にも入ってもらうことを想定しています。日本薬科大学の学生さんは、居住地は蓮田ではないが、蓮田の駅やバスを利用して周辺で遊ぶなどしているため、近いような意見が得られるのではないかと思います。

(議長)

働いているという意味では、光野委員から本審議会にていろいろご意見いただいているので、それでも補えるとも思います。

私の勤める人間総合科学大学の場合は、蓮田市以外から来て、蓮田市に就職するという形でお世話になっている学生が結構おりますので、そういう意味では、いい意見が聞けるのではないかと思います。

ただ、仕事のしやすさという点をもし聞くことができれば良いと思いますが、蓮田市商工会はすべて地元の方だと思うので、もし何か工夫ができれば、予算の範囲で可能な限りご検討いただければと思います。

(山田委員)

資料7の市民会議の目的について、2点意見があります。1点目は、

ウェルビーイングという表現と幸せは、少しニュアンスが違うのではと感じます。幸せとはどちらかと言うと一時的で刹那的なものであり、ウェルビーイングはどちらかと言うと長く持続させていくというニュアンスがあると思うので、幸せを考えて持続させていくという表現に少し違和感を感じてしまいました。

それに伴って2点目は、幸せの定義がそもそも定まらないままこの会議に参加すると、終着点が見えないかなと思いましたので、その点お考えがあれば伺えればと思います。

(政策調整課長)

その点がまさに難しいところだとは認識しています。策定委員会の中でも、幸せ、幸福度、ウェルビーイングがそもそもどのようなものかをまず市民会議の中で考えた方がよいのではという意見があり、想定もいたしましたが、やはりかなり深い問題になるので、見合わせることにしました。個人の幸せというよりも、地域の幸福度を中心に考えていただくということにしたいと思います。

ウェルビーイングというと、非常に高尚な問題ですので、概要について説明してから会議を始めたいと考えています。これまであったSDGsでは、誰一人取り残さないことを目指していましたが、それをもっと上の段階である、幸せを追求していける地域になっていくことを目指すといった内容の説明を考えております。

(議長)

市民会議第1回目のテーマである「わたしの幸せ」というと、少し刹那的になってしまうかもしれないので、「わたしたちの幸せ」「地域の幸せ」「蓮田市での幸せ」などという形で進めていただくと良いと思います。

我々の大学では、ウェルビーイングとは「より良く生きること」と学生に伝えています。幸せとはかなりずれた概念で、ブータンの幸福度調査が政治利用なのではないかと学術的に非難されて、最近では、幸福度というよりは、やはり市民主体のウェルビーイングという考え方の方が主流だと思います。そういう形で修正いただけるとのことで、ありがとうございます。

他の委員の方、ご意見いかがでしょうか。

(加藤委員)

私も、20～50代くらいで、市内で働いている方を中心にキーパーソンを選んでいただきたいというのと、学校の先生は難しいかもしれませんが、給食室等の学校関係で働いている方も、可能でしたらメンバーに含めていただきたいと思います。

(議長)

たしかにこのメンバーだと、蓮田と外との比較が難しくなってしまうかもしれないので、市民会議参加者案の22～30番までは市民アンケートを通じた申し込みになっていますが、そこを2名くらい市外から来られていて、特に蓮田で長くお勤めになっている方をピックアップできれば、それも1つの案だと思いますが、いかがでしょうか。

(政策調整課長)

わかりました。検討させていただきます。

(議長)

よろしくお願いします。

市民会議のコーディネートが極めて重要だと思いますが、どのようにコーディネートを進められるのか方向性について教えていただけますか。

(政策調整課長)

実際の進行は、市民会議に慣れている委託事業者にお任せする予定です。

(議長)

どのように進めるか、もし腹案があれば教えていただけますか。

(委託事業者)

市民会議に不慣れな方も多数想定されます。また、テーマについても人によっては難しく考えてしまう方もいらっしゃると思います。そのため、まずは私共もしくは市の方から、このような趣旨でこのようなやり方で実施していきますということを噛み砕いて説明するオリエンテーションを行います。

その後、各テーブルに分かれて実施していきますが、基本的に各テーブルにファシリテーターがついて、いわゆるKJ法を用いて、意見集約を行います。伝統的な方法ではありますが、デジタルに強い方も弱い方も比較的のってきていただけるので、各々に意見を書いていただきながら、我々が集約の手伝いをします。例えば若い方など、少し意見が出にくいような方がいらっしゃったら、声をかけながら進めます。

意見の質はもちろん大事ではありますが、まずは楽しくやるのが大事です。若い方にまたこういう取組をやりたいと思ってもらえることも非常に大事だと思いますので、まずは楽しいと思ってもらえることを心掛けながら進めたいと思っています。

そして、出てきた意見はさまざまなレベル感のものがあると思ってい

ます。基本構想に生かせるものもあれば、個別具体のある事業についての意見が出てくるかもしれません。それを我々で整理して、これは基本構想に生かせるご意見、これは実施計画の中で各所管の皆様に参考にしていただけるようなご意見というように意見を仕分けていくというような形で進めて参りたいと考えております。

(議長)

ありがとうございました。質的な研究にはm G T A法などもあります。私もK J法で実施するのが良いと思います。

もう1点、資料6（小中学生アンケート）と資料7（市民会議）の前後関係について、資料6を踏まえたうえで資料7に進むのか、それともそれぞれは全く独立しているものなのかを教えてください。

(政策調整課長)

全く別物として動きます。

(議長)

わかりました。ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。

(田口委員)

市民意識調査は18歳以上が対象で、小中学生アンケートも取りますが、高校生は、市民会議に出るとても少ない人数にしか意見を聞かないことになると感じました。高校生は市外の高校に行っているなど、アンケートの対象者に含めるのが難しいのかもしれないのですが、意見聴取の方法が手厚く検討されている中でも、高校生の層が薄いと感じますが、やはり高校生を含めるのは難しいのでしょうか。

(議長)

先ほどの議論でもありますが、中学2年生よりは中学3年生と高校3年生の方が良いなどというイメージでしょうか。

(田口委員)

高校生は市民会議に出席する2名しか意見を述べる機会がないのだなと思いました。市外の高校に行ってしまうから、市内の高校にアンケートを送っても回答できない人もいるということかとは思いますが。

(議長)

技術的に蓮田市民の高校生にアンケートを取ることは難しいのでしょうか。

	(政策調整課長) 市民意識調査の対象を18歳からではなく16歳からとすることは可能ですので、16歳にいたしましょうか。 (議長) せっかく調査を実施するので小中学生に意見を聞くのに高校生は全く蚊帳の外とするのではなく、高校生からも意見を聞けたほうがいいと思います。 (政策調整課長) はい。16歳からに変更させていただきます。 (議長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。いろいろな意見をいただいてとても良いものになってきたと思います。 では、他にご質問等がなければ議題3についての審議は以上で終了いたします。本日は、大変活発な意見交換をしていただき、ありがとうございました。委員の皆様からの意見等を踏まえ、執行部は引き続き、第6次総合振興計画策定に向けて、ご努力いただきますようお願いします。 これで、本日の審議会を終了いたします。会議進行にご協力いただき、ありがとうございました。議事進行を事務局にお返しします。
3 その他	(政策調整課副主幹) 中山会長、ありがとうございました。 続きまして、次第の3 その他に移ります。 事務局から3点ご連絡がございます。政策調整課長より申し上げます。 《事務局より連絡事項》
4 閉会	(政策調整課副主幹) 続きまして、次第の4 閉会でございます。 奥沢副会長に、閉会のごあいさつを頂きたいと存じます。 《奥沢副会長より閉会のあいさつ》 (政策調整課副主幹) ありがとうございました。以上で令和7年度第1回蓮田市総合振興計画審議会を終了いたします。ありがとうございました。